

じょうけい

発行日 2022年1月1日
 編集 藏ノ下 博之
 発行 真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
 電話 092-753-6257
 携帯 090-2318-3268
 FAX 092-510-0253



http://www.jyokeiji.jp

鏡如教経

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も変わらぬご厚誼のほどお願い申し上げます。

仏事によって心をほぐく

時間、鈴虫の声…

先日、ご自宅にてご法事をお勤めしました。写真は、施主となられたご兄弟とご親戚の方です。肩衣を着用されているのがご兄弟です。お二人にとつてのご祖父様、ご祖母様の三十三回忌でした。お伺いしますと、ご遺影とその横に、四つの場面が描かれた絵がありました。

お勤めた後に、ご兄弟がこの度の法事を発願された経緯をお話し下さいました。お二人にとつてのご実家は、今は、どなたもお住まいではないのですが、この二年ほどの間、コロナの影響によって飲食店は閉店が続き、お二人でゆつくり語り合う場が無くなってしまいました。しかし、考えてみると、家族の思い出が沢山詰まっている家があるんじゃないか、という事になり、時を見ては、お互いにお酒と肴を持ち寄り、実家でのお二人の飲み会が始まったそうです。差しつ差されつつ、話しは、お二人の幼い時の思い出話になったそうです。その中でも、夏休みに毎年通った、瀬高のおじいちゃん、おばあちゃんの思い出は、話しが尽きないほどでした。

瀬高の駅におじいちゃんが迎えに来てくれた事、山から切り出した竹で作ってくれた釣針でのフナ釣り、おばあちゃんが作ってくれた即席ラーメンの味。すこし苦かった、つるむらさきの味。みんなで川の字になって寝た、昼寝の時間、鈴虫の声…



懐かしい思い出に浸っている中で、お二人は、「そうだ、おじいちゃん、おばあちゃんの法事をしよう!」と思われたそうです。そして、法事の時には、ご遺影の横に、兄弟二人で語り合った思い出を絵にして、お供えをする事になったそうです。

そのお話を聞いていますと、ご親戚の方が、「少しいいですか?」とお話しを始められました。その方は、お二人にとつての叔父様でした。ご祖父様、ご祖母様の息子さんです。「厳格な父に育てられて、私は長い事、反発していました。だから、今日まで、父の法事というような事には、関心がありませんでした。しかし、甥の二人が父の法事に招いてくれて、今、二人の話を聞くうちに、これまで私が抱えていたものに、変化が訪れたように思います。思い起こせば、ここ数年、何度か体調を崩した事がありました。たまたま、親身になって治療して下さったお医者さんがいらして、私は助かったのですが、それも今考えてみれば、父が私の事を守ってくれたのではないかと思えます。これまで私は、そういう事を遠ざけようとしていたのですが、今日の法事で改めて、甥の二人から教わったように思います。父や母の思い出を絵にまでしてくれて。父は、きっと私に対して、本当は心の底から愛してくれていたのだらうと思えました。今となつては、父に語りかける事は出来ませんが、こうして仏事を通して、もう一度、出遇い直す事が出来るんだと感じて、今日は、とても感謝しています。有難う。」

私は、このご法事を通して、これまで反発していた気持ちが、語らいや仏事によって心がほぐけるということがあることを教えていただきました。仏事を通して出遇い直す事が出来る。出遇い直すような心を頂けた自身との出遇いがあるとするならば、仏事は限られた私たちの人生の時間を輝かせるものとなるのではないのでしょうか。

住職記



修正会法要ご案内

- 2022年1月9日(日)
- 13時30分より本堂にて
- 勤行/法話(当寺住職)

浄土真宗の寺院をはじめ、さまざまなお寺では、新年に「修正会」という法要が勤められます。「修正会」とは、正月に修される法会(法要)という意味で古くから行われている行事です。

仏さまに手を合わせるためにも、新年にお寺に参拝してみたいかでしょうか。

★法要終了後、住職が本堂に残っておりますので、仏事に関するご相談など気兼ねなくお声かけください。

2022年 年間行事予定

法要	日時	
修正会法要	1/9 (日)	13:30より
春彼岸会法要	3/21 (祝月)	13:30より
永代経法要	5/14 (土) ~15 (日)	13:30より
盂蘭盆会法要	8/13 (土) ~15 (月)	10:00より
秋彼岸会法要 門徒会総会	9/23 (祝金)	13:30より
報恩講法要	11/12 (土) ~13 (日)	13:30より
宗祖親鸞聖人 ご命日のつどい	毎月28日	13:30より

【納骨堂の方へ】

納骨堂にお参りの際に、年に一度は納骨壇の中の拭き掃除をしましょう。納骨堂に布巾をおいておりますので、優しく乾拭きしてください。

お供え物について

ご法事やお寺へお参りに際に、いつも仏さまにお心のこもったお供物を賜わり有難うございます。皆さまからのお供物は、ご命日の集いや寺院の行事・会議などの際に頂いております。

2022年 (令和4年) 法事早見表

年回	年回にあたる没年	
1周忌	2021年	令和3年
3回忌	2020年	令和2年
7回忌	2016年	平成28年
13回忌	2010年	平成22年
17回忌	2006年	平成18年
23回忌	2000年	平成12年
25回忌	1998年	平成10年
33回忌	1990年	平成2年
50回忌	1973年	昭和48年

※ 地域によっては27回忌・37回忌・70回忌・100回忌やそれ以外の年忌法要を勤める場合もあります。

クイズで学ぶ仏教語(3面) 答え

⇒ 「①垢」

生地がすべて白の無地の婚礼衣装「白無垢」や、丸太から切り出した自然な状態のままの木材のことを「無垢材」と言ったりします。一般的に「無垢」は、まじり気や濁りがなく清浄であることを意味する言葉ですが、もともとは、一切煩惱から離れているということの意味する仏教語です。

仏教のウ！ポイント

<垢>とは煩惱を意味する言葉です。つまり<無垢>とは、「煩惱が無い」という意味で、心身にけがれの無い清浄な状態を表します。反対に「煩惱が有る」状態のことは<有垢>と言います。仏教において煩惱とは、貪欲・瞋恚・愚痴(貪り・怒り・愚かさ)を指しますが、人間がこれらの煩惱から完全に解放されるのは非常に難しいことから、<無垢>は仏のさとり境地を表す言葉としても伝えられてきました。

出典/『月刊 同朋』 2021年1月号 56頁

松原さん親子。七五三を迎えられ、お参りに来られました。着物姿がとても愛らしいです。健やかな成長を祈念しております。



弔事も慶事もお寺へご参詣し、仏さまに手を合わせましょう。本堂にて勤行・法話をご希望の方はお問い合わせください。

川柳 山口由利子

だまつて聞け 寡黙な父の愛だった

球形の歪みに鬼も来て遊ぶ

コロナ禍も 工夫次第と弾む知恵

はやぶさ2 ミッション続く宙の果て

浄土真宗 keyword

りん 鈴

出典 / 月刊同朋 2021年4月号

いつ鈴を打つの？

鈴は「かね」とも呼ばれ、寺院では「鑿(きん)」と言われています。お内仏(仏壇)の前に座ったら、ひとまず鈴を打たれる方や、座るたびに鳴らされる方がおられますが、鈴とはお勤めのときに打つものです。お勤めの始まりや区切り、終わりなど、勤行の決められた合図として、撥(ばち)を使って打ちます。

お勤めの合図

お勤めにあたっての手順は、まずお内仏に灯明を点じ、線香を焚き、ご本尊を仰ぎ合掌して、お念仏を称え、そのあと鈴を打ちます。真宗門徒の朝夕のお勤めで読む「正信偈」の場合は、一打目は音を小さく、二打目は大きく打ち、発声します。鈴はお勤めを始める合図となり、複数人でお勤めする場合には、お勤めの速さやリズムを合わせる重要な役割を担っています。

仏教・仏事 豆知識…朝夕の勤行

真宗門徒の朝夕のお勤めには、「正信偈」が読まれます。「正信偈」とは、親鸞聖人が書かれた『教行信証』の中で記された偈(うた)です。朝夕のお勤めとして用いることが定着したのは、およそ500年前の第8代・蓮如上人の時代にさかのぼり、すべての人が親鸞聖人の言葉に親しみ、教えに出あうことを願って定められました。

【鈴の撥(ばち)の置き方】

真宗大谷派では撥を置く台はないので、納骨堂やご自宅のお内仏(仏壇)の撥は、鈴の中央に納めましょう。本堂の鑿の撥も、お勤めに使うとき以外は鑿の中に納めてあります。



クイズで学ぶ仏教語

結婚式で新郎新婦が着る衣装には、洋装と和装があります。洋装のほうをよく見かけますが、最近では和装の人気も高まってきているようです。日本ならではの婚礼衣装も素敵ですよ。

今回は結婚式の衣装にまつわる言葉からクイズです。

Q.日本古来の和装で、婚礼の際、女性が着る「白(むく)」では、□に当てはまる漢字はどれでしょう？

無□

- ①垢 ②苦 ③句 (答えは4面)

出典 / 『月刊 同朋』2021年1月号 50頁

お寺での参拝方法

似ているようで実は少し違うのが、お寺と神社の参拝方法。

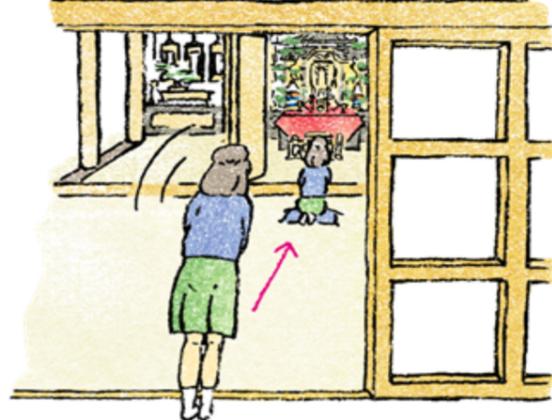
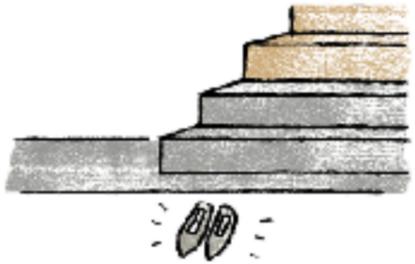
ここでは、お寺の参拝の手順について解説します。

本堂はお寺の中心となる場所で、もんぼうどうじょう聞法道場です。お墓参りの方も納骨堂参りの方も、必ず本堂に上がり、ご本尊に合掌・らいはい礼拝してからお墓や納骨堂へお参りしましょう。

1、山門の前で一礼。
寺院の門である「山門」の前で、本堂に向かって一礼をします。



2、靴をぬぐ。
本堂正面の階段の下で靴をぬぎます。



3、本堂に入る。
本堂に入る際は、扉を開けて一礼して御本尊の前まで行って座ります。儀式のために敷居や柵で仕切られていたり、一段高くなっている場所まで入らないようにします。足の不自由な方は立ったままで結構です。

4、阿弥陀仏を仰ぐ。

本堂の正面の阿弥陀仏を仰ぎ見ます。本堂に置いてある線香を焚きます。焚き方は、まずろうソクに火を点じ、線香を1~2本取り、香炉の大きさに合わせて折ります。ろうソクの火種から線香に火を灯し、火の付いた方を左にして灰の上に横にねかせて置きます。線香を立てることはしません。忘れずにろうソクの火も消しましょう。



5、念仏する。

念珠(数珠)に手を通し、仏様に手を合わせます。静かに「南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ)」と称えます。声に出すことが真宗門徒にとって大切な行(ぎょう)です。柏手は打ちません。

南無阿弥陀仏...



6、合掌を解く。

合掌(がっしょう)を解き、ずらい頭礼(かるく頭を下げる)します。本堂を出る際も一礼をしてから出ましょう。

